

事例：No. 20

低コストで効率的な素材生産を行っている林業事業体の活動事例

都道府県名及び担当部署名：京都府、京都府南丹広域振興局農林商工部

担当林業普及指導職員名：正田 憲一

1. 林業事業体名 株式会社あしだ

2. 林業事業体の概要

- ①年間素材生産量 4,000m³（うち 間伐の占める割合 50%）
- ②生産する主な樹種 スギ及びヒノキ（割合は 50：50）
- ③素材生産に関する作業員数 7名（1セット3～4名で常に2セットで作業）

3. 活動の特徴

- ・平成6年にプロセッサを導入。索道との組合せで生産性を向上させるとともに、伐倒後の葉枯らしや伐採木に土を着けない作業で、効率化と付加価値の向上を心がけている。
- ・常に、林道、作業道、作業路、索道とグラップル、プロセッサを組合せ、現場条件（地形・間伐か皆伐・伐採径等）毎に効率的な作業システムを構築して、集運材に係る木材移動（接触）回数を低減し、素材生産コストの減少に努めている。
- ・複数の市場から、的確な市況情報（相場と材の使用用途）を入手して、適寸に採材することにより、商品価値を高めて山主への還元に努め、山主が専門林家として生計がなりたつことを目標に活動している。

4. 高性能林業機械などを活用した作業内容

①素材生産用保有機械

プロセッサ 1台、グラップル 2台、フォワーダ 1台、集材機 10台
10tトラック 1台、回送車 1台、7tトラック 1台、クレーン車 1台

②主に取り入れている作業システム等

常に林業機械が効率的に動けるように集材線を張り、整木土場（造材、仕分け、積込）が設置できるようにしている。

伐採：チェーンソー

集材：最低3t以上の荷が吊れる集材線を設計し架設をする。

造材：小径木（40cm以下）は、プロセッサ、大径木は、チェーンソー

運材：7t車が、入るように既設の作業道を拡幅する。

③労働生産性 皆伐 8～13 m³/人・日
間伐 5～10 m³/人・日

④素材生産コスト 皆伐 5,000 円/m³～10,000 円/m³
(積込する道までの距離が0 m～1000 m, 集材面積1 a～20ha)
間伐 6,000 円/m³～12,000 円/m³
(皆伐と同距離, 同面積の場合)

5. 素材生産の低コスト化による成果と可能性

- ・高性能林業機械の導入などを通じて機械作業の増加に伴い、Iターン等の若手林業者の雇用につながっている。
- ・作業路、作業道の開設や拡幅が比較的簡単となり、整木土場の設置が不可能な場所も少なくなってきたため、集材土場を設けず材の積み替えがなくなり、仕分けの効率化を図ることにより、生産コストを押さえている。
- ・素材生産現場の立地条件、生産量によって、作業路による集材か集材線による集材か等いろいろな集材方法が選択できるようになり、山主の希望に添った施業が可能となってきている。



索道による集材



作業路開設による集材準備



プロセッサによる造材



グラップルによる集材・仕分け